

肉用子牛の保証基準価格等 算定概要

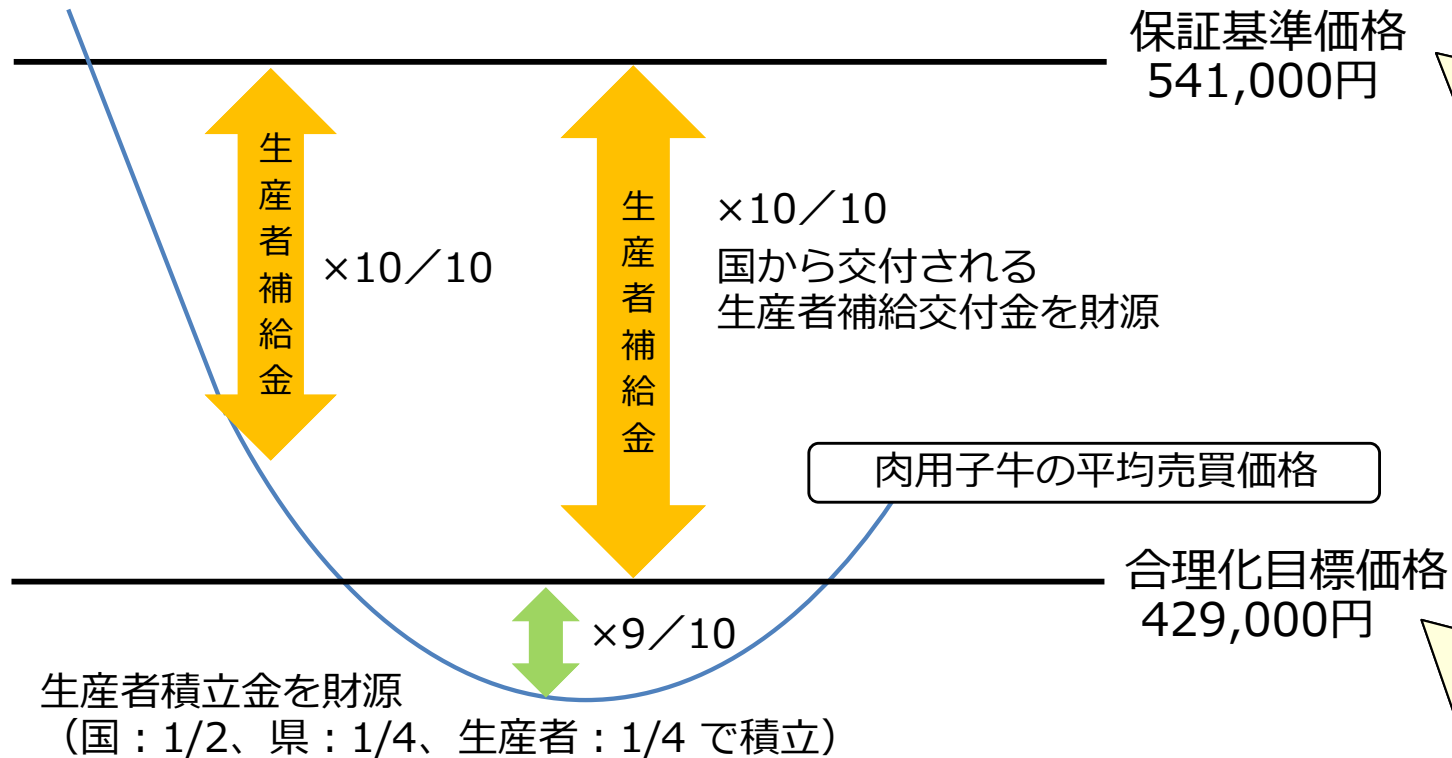
生 産 局

令和 2 年 1 2 月

肉用子牛生産者補給金制度

- 本制度では、牛肉の輸入自由化後における肉用子牛価格の低落に対処するとともに、中長期的には肉用牛生産の合理化により輸入牛肉に対抗し得る国産牛肉価格の実現を図るため、保証基準価格と合理化目標価格を設定。

【黒毛和種の場合】



肉用子牛の生産条件や需給事情等を考慮し、**肉用子牛の再生産を確保**することを旨として定められる価格

輸入牛肉に対抗し得る肉用牛生産の確立を図るため、繁殖農家・肥育農家の生産の合理化により、その実現が必要な目標価格

保証基準価格及び合理化目標価格(令和2年度)

(単位:千円/頭)

	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種	乳用種	交雑種
保証基準価格	541	498	320	164	274
合理化目標価格	429	395	253	110	216

保証基準価格の算定式の見直し内容（①和子牛）

保証基準価格については、平成30年12月、TPP等関連政策大綱に基づき、**輸入自由化前7年間（昭和58年2月～平成2年1月）の農家販売価格をベース**とした算定から、**直近7年間（平成23年度～平成29年度）の生産費をベース**とした算定に見直し、TPP11発効の**平成30年12月30日から適用**。

〔 基本算式 〕（和牛系列）

見直し前（平成30年度価格算定方式）

※黒毛和種と褐毛和種の取引価格の平均を基準価格とし、当該価格から各品種の取引価格を勘案して算出

$$\begin{array}{c} \text{自由化前7年間（昭和58年2月～平成2年1月）の} \\ \text{農家販売価格（固定）} \end{array} \times \frac{\begin{array}{c} \text{生産コストの変化率} \\ \text{価格算定年度の} \\ \text{生産費（推計）} \end{array}}{\begin{array}{c} \text{自由化前7年間の} \\ \text{生産費（固定）} \end{array}}$$

×

市場取引価格
換算係数

×

品種格差係数※
（自由化前7年間で固定）

黒毛和種
褐毛和種
その他の肉専用種

見直し後

直近7年の農家販売価格と市場取引価格を基に、農家販売価格を市場取引価格に換算

$$\begin{array}{c} \text{初年度の} \\ \text{保証基準価格の} \\ \text{算定に用いた} \\ \text{生産費ベースの} \\ \text{価格（固定）} \end{array} \times \frac{\begin{array}{c} \text{生産コストの変化率} \\ \text{価格算定年度の} \\ \text{生産費（推計）} \end{array}}{\begin{array}{c} \text{初年度算定に用いた7年間} \\ \text{（平成23～平成29年度）} \\ \text{の生産費（固定）} \end{array}}$$

×

市場取引価格
換算係数

×

品種格差係数※
（直近7年平均）

黒毛和種
褐毛和種
その他の肉専用種

保証基準価格の算定式の見直し内容（②乳用種・交雑種育成）

- 乳用種・交雑種の保証基準価格の算定に当たっては、**直近の又レ子価格の高騰**に鑑み、生産費の過半を占める**素畜費の算定**は、**平成17年以降13年間の平均値**を採用。
- なお、乳用種・交雑種の算定については、和牛の品種を区別する**品種格差係数**を乗じない。

〔基本算式〕（乳用・交雑種）

見直し前（平成30年度価格算定方式）

$$\begin{array}{c} \text{自由化前7年間(昭和58年2月～平成2年1月)の} \\ \text{農家販売価格(固定)} \end{array} \times \frac{\begin{array}{c} \text{生産コストの変化率} \\ \text{価格算定年度の} \\ \text{生産費(推計)} \end{array}}{\begin{array}{c} \text{自由化前7年間の} \\ \text{生産費(固定)} \end{array}} \times \begin{array}{c} \text{市場取引価格} \\ \text{換算係数} \end{array}$$

見直し後

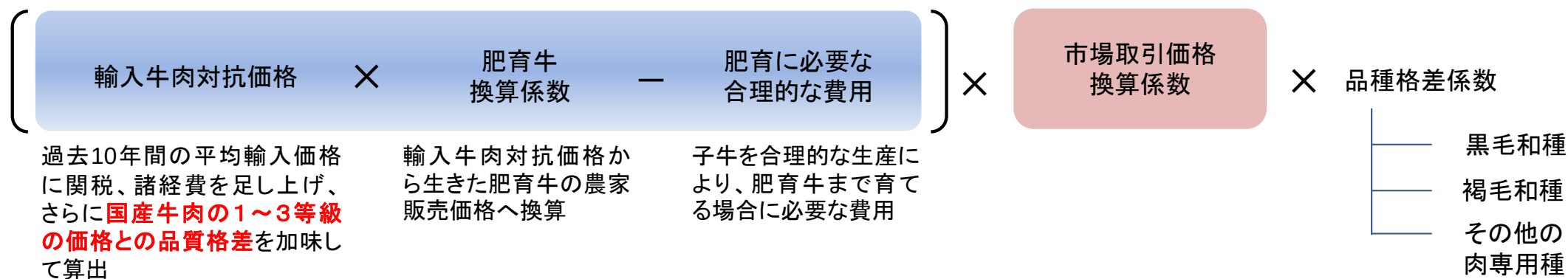
$$\begin{array}{c} \text{初年度の} \\ \text{保証基準価格の} \\ \text{算定に用いた} \\ \text{生産費ベースの} \\ \text{価格(固定)} \end{array} \times \frac{\begin{array}{c} \text{生産コストの変化率} \\ \text{価格算定年度の} \\ \text{生産費(推計)} \end{array}}{\begin{array}{c} \text{初年度算定に用いた7年間} \\ \text{(平成23～平成29年度)} \\ \text{の生産費(固定)} \end{array}} \times \begin{array}{c} \text{市場取引価格} \\ \text{換算係数} \end{array}$$

合理化目標価格の算定式の見直し内容（①和子牛）

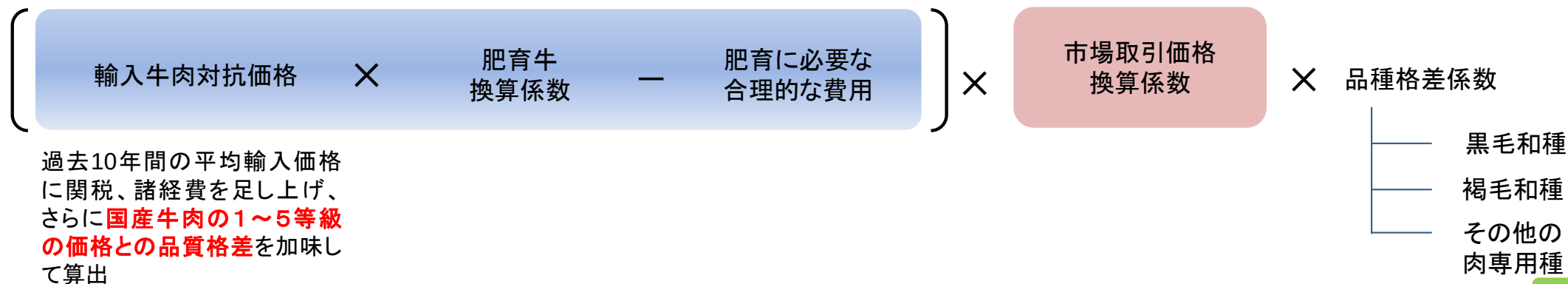
合理化目標価格については、**1～3等級をベース**とした算定から、**4・5等級も加えた全等級をベース**とした算定に見直し。

〔基本算式〕（和牛系列）

見直し前（平成30年度価格算定方式）



現行



合理化目標価格の算定式の見直し内容（②乳用・交雑種）

〔基本算式〕（乳用・交雑種）

見直し前（平成30年度価格算定方式）

輸入牛肉対抗
価格 × 肥育牛
換算係数 − 肥育に必要な
合理的な費用

×

市場取引価格
換算係数

過去10年間の平均輸入価格
に關稅、諸経費を足し上げ、
さらに**国産牛肉の1～3等級
の価格との品質格差**を加味し
て算出

現行

輸入牛肉対抗
価格 × 肥育牛
換算係数 − 肥育に必要な
合理的な費用

×

市場取引価格
換算係数

過去10年間の平均輸入価格
に關稅、諸経費を足し上げ、
さらに**国産牛肉の1～5等級
の価格との品質格差**を加味し
て算出

算定結果（概要）について

令和3年度の保証基準価格の算定式（①和子牛）

再生産が可能となる、農家の庭先販売価格

基準価格

初年度（平成31年度）
の保証基準価格の
算定に用いた
生産費ベース
（平成23～29年度）の
価格（固定）

生産コストの変化率

令和3年度の
生産費（推計）

初年度算定に
用いた7年間
（平成23～29年度）
の生産費（固定）

市場取引価格
換算係数

品種格差係数

直近7年平均
平成25～令和2年

黒毛和種

褐毛和種

その他の
肉専用種

10頭飼養規模層以上の労働費を採用

平成37年度の酪肉近目標の
達成に向けた平成31年度の到達値
（出荷月齢：8.95ヶ月、
分娩間隔12.99ヶ月）

酪肉近目標

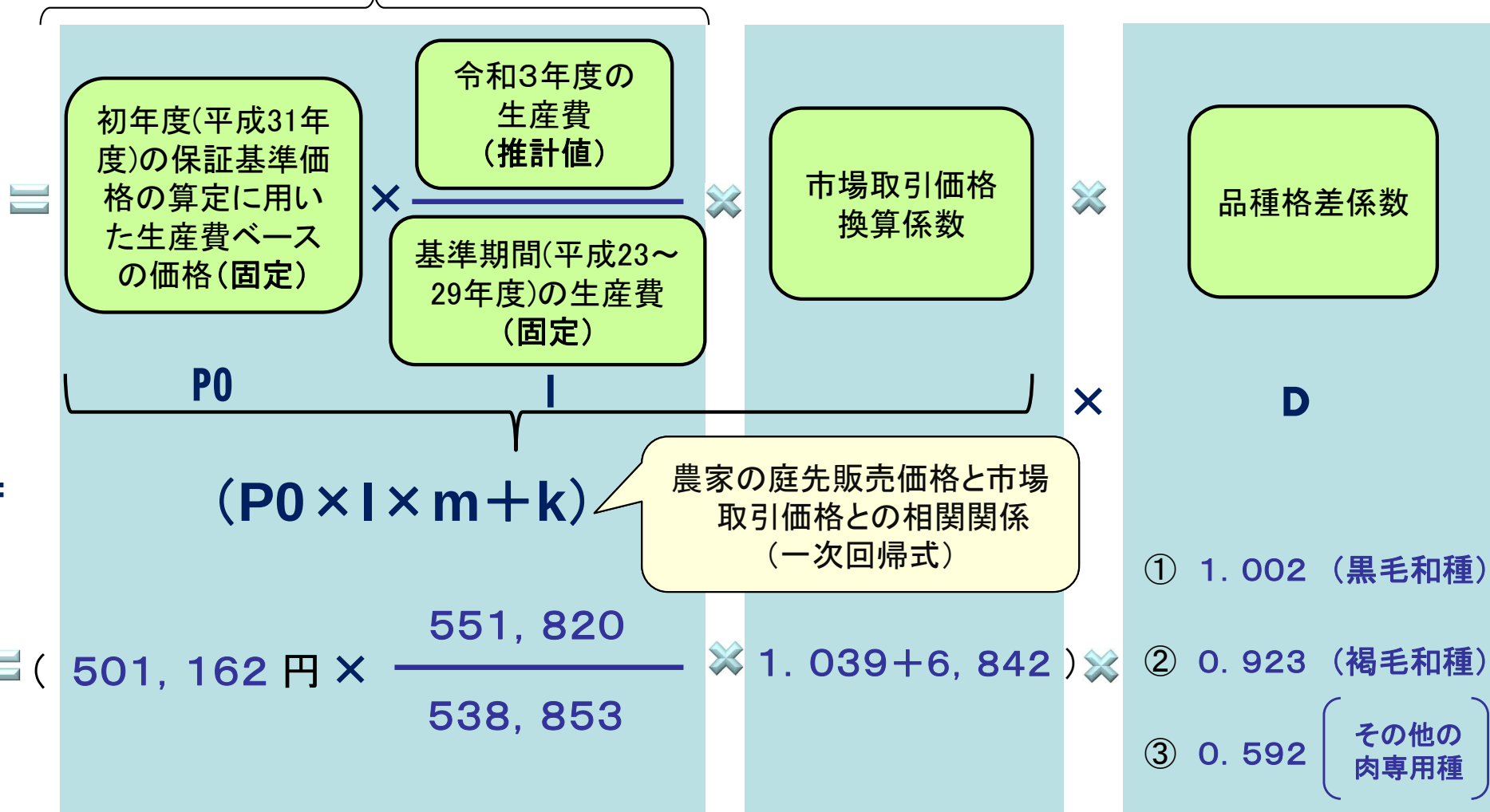
出荷月齢：8ヶ月
分娩間隔：12.5ヶ月

肉用子牛の保証基準価格について（①和子牛）

再生産が可能となる農家の庭先販売価格

[算 式]

保証基準価格
(市場価格ベース)



[試 算]

和子牛

$$= (501,162 \text{ 円} \times \frac{551,820}{538,853} \times 1.039 + 6,842) \times$$

- | | | | | |
|------------|---|---------|---|-------------|
| ① 黒毛和種 | = | 541,126 | ⇒ | 541,000 円/頭 |
| ② 褐毛和種 | = | 498,462 | ⇒ | 498,000 円/頭 |
| ③ その他の肉専用種 | = | 319,707 | ⇒ | 320,000 円/頭 |

令和3年度の保証基準価格の算定式（②乳用種・交雑種育成）

基準価格

初年度（平成31年度）
の保証基準価格の
算定に用いた
生産費ベース
（平成23～29年度）の
価格（固定）

×

生産コストの変化率

令和3年度の
生産費（推計）

初年度算定に
用いた7年間
（平成23～29年度）
の生産費（固定）

×

市場取引価格
換算係数

一定の飼養規模層以上の労働費を採用
（乳用種200頭以上、交雑種100頭以上）

平成37年度の酪肉近目標の達成に向けた
平成31年度の到達値
（出荷月齢：乳用種6.71ヶ月、交雑種7.63ヶ月）

酪肉近目標

（乳用種）出荷月齢：6ヶ月、（交雑種）出荷月齢：7ヶ月

素畜費：平成17年度以降の13年間の平均

肉用子牛の保証基準価格について（②乳用種・交雑種育成）

[算 式]

保証基準価格
(市場価格ベース)

The diagram illustrates the calculation of the basic price (P0) and the final price formula. It is divided into three main sections by vertical lines.

Section 1 (Left): Contains a light blue box with the text: "初年度(平成31年度)の保証基準価格の算定に用いた生産費ベースの価格(固定)". Below this box is the label **P0**.

Section 2 (Middle): Contains two light green boxes. The top box is labeled "令和3年度 of 生産費 (推計値)". The bottom box is labeled "基準期間(平成23~29年度) of 生産費 (固定)". These two boxes are separated by a horizontal line. To the left of this section is a blue multiplication symbol ($\times$), and to the right is a blue division symbol ($\div$). Below this section is the label **I**.

Section 3 (Right): Contains a light green box with the text: "市場取引価格換算係数". To the left of this box is a blue multiplication symbol ($\times$).

Bottom Section: A large bracket spans the width of the diagram, with the formula **(P0 × I × m + k)** written below it.

[試 算]

乳用種

$$= (150,916 \text{ 円} \times \frac{158,072}{155,166} \times 1.056 + 1,555)$$

交雜種

$$= (254,216 \text{ 円} \times \frac{272,861}{267,850} \times 1.012 + 11,839)$$

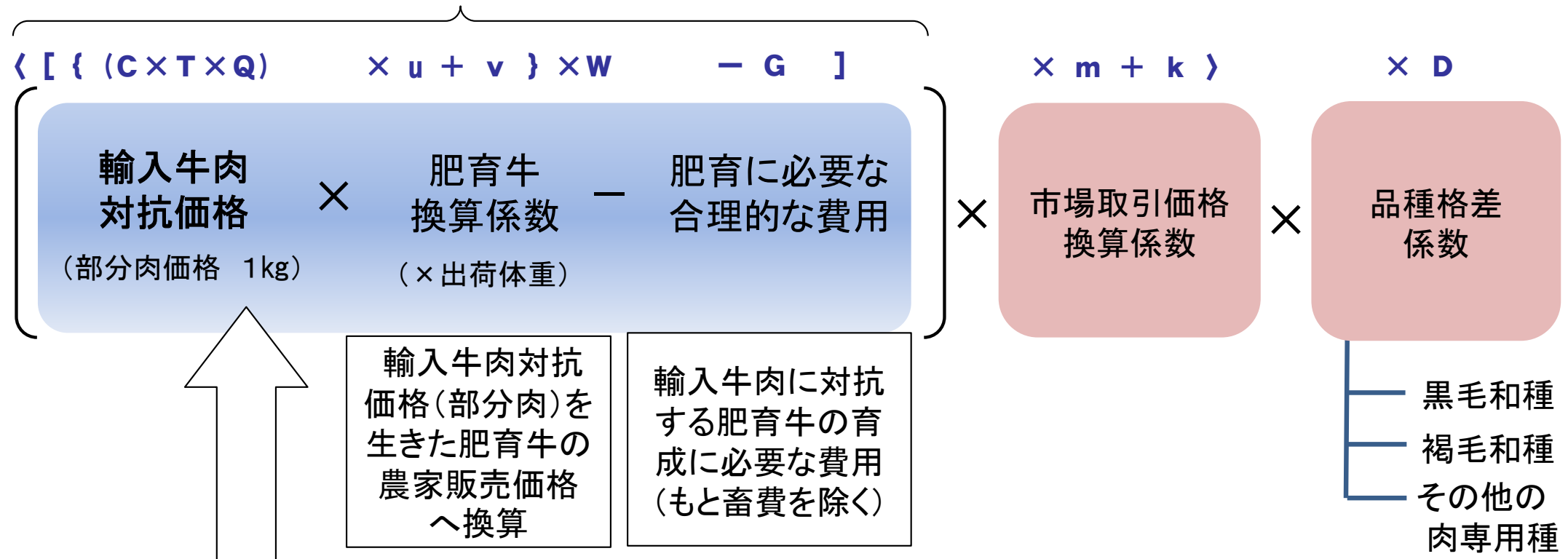
乳用種 = 163,950 ⇒ 164,000 円/頭

交雜種 = 273,994 $\Rightarrow$ 274,000 円/頭

肉用子牛の合理化目標価格の基本算式（①和子牛）

〔基本算式〕（和牛系列）

輸入牛肉に対抗可能な肥育牛の生産に必要な子牛価格（肥育農家の購入価格）



直近10年間（平成22年～令和2年）の平均輸入価格に関税、諸経費を足し上げ、さらに国産牛肉の1～5等級の価格との品質格差を加味して算出

C: 輸入牛肉価格
T: 関税率＋諸経费率
Q: 国産部分肉と輸入部分肉との品質格差（国産プレミアム）
u、v: 輸入牛肉対抗価格と生きた肥育牛の農家庭先販売価格との一次回帰式に用いる係数
W: 出荷体重

肉用子牛の合理化目標価格について（①和子牛）

[算 式]

合理化目標価格 (子牛1頭当たり) =

$$P = \left[\left(\begin{array}{c} \text{輸入牛肉} \\ \text{対抗価格} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{肥育牛} \\ \text{換算係数} \\ (\times \text{出荷体重}) \end{array} - \begin{array}{c} \text{肥育に必要な} \\ \text{合理的な費用} \end{array} \right) \times \begin{array}{c} \text{市場取引価格} \\ \text{換算係数} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{品種格差} \\ \text{係数} \end{array} \right]$$

[試 算]

肉専用種 =

$$\left[\left(\begin{array}{c} \text{2,818.59円} \end{array} \times \begin{array}{c} 0.368 + 102.3 \end{array} - \begin{array}{c} 461,469円 \end{array} \right) \times \begin{array}{c} 0.956 + 3,926 \end{array} \times \begin{array}{c} \text{① 1.002 (黒毛和種)} \\ \text{② 0.923 (褐毛和種)} \\ \text{③ 0.592 (その他の肉専用種)} \end{array} \right]$$

① 黒毛和種	=	428, 578	⇒	429,000 円/頭
② 褐毛和種	=	394, 788	⇒	395,000 円/頭
③ その他の肉専用種	=	253, 212	⇒	253,000 円/頭

〔基本算式〕（乳用種・交雑種）

輸入牛肉に対抗可能な肥育牛の生産に必要な子牛価格（肥育農家の購入価格）

$$\left[\{ (C \times T \times Q) \times u + v \} \times W - G \right] \times m + k$$

輸入牛肉
対抗価格

×

肥育牛
換算係数

—

肥育に必要な
合理的な費用

（部分肉価格 1kg） （×出荷体重）

×

市場取引価格
換算係数

肉用子牛の合理化目標価格について（②乳用種・交雑種）

〔 算 式 〕

合理化
目標価格
(子牛1頭当たり)

P =
〔 試 算 〕

乳用種

交雑種

	輸入牛肉 対抗価格	×	肥育牛 換算係数 (×出荷体重)	−	肥育に必要な 合理的な費用	×	市場取引価格 換算係数
	$\{ (C \times T \times Q) \times$		$u + v \} \times W$		$- G$		$\} \times$
	$m +$		k				
	$[\{ 1,390 \text{ 円}$	×	$0.368 - 47.7 \} \times 779.9$	−	$257,777 \text{ 円}$	×	$0.986 + 7,471 \}$
	$[\{ 1,853 \text{ 円}$	×	$0.277 + 183.7 \} \times 813$	−	$366,598 \text{ 円}$	×	$0.997 + 16,079 \}$

乳用種 = 109, 964 ⇒ 110,000 円/頭

交雑種 = 215, 591 ⇒ 216,000 円/頭

【参考】肉用子牛の合理化目標価格の算定イメージ

